

## 地域農業の将来方向に関する研究

### ◆キーワード

地域農業 担い手 農村調査

### ◆産業界の相談に対応できる分野

将来戦略の策定 集落営農組織の法人化支援

農学部地域環境科学科 准教授

西川 邦夫

TEL 029-888-8617

FAX 029-888-8525

URL <http://nishikawakunio920.jimdo.com/>

e-mail k.nishi@mx.ibaraki.ac.jp



### 一言 アピール

本研究は、綿密な農村調査をもとに、地域農業の将来戦略の策定を支援します。

### 研究概要

米価下落、高齢化、そして担い手不足と、農業を取り巻く環境は厳しさを増し、ほとんどの地域は地域農業の将来を見通せない状況にあります。一方で、関係機関の支援の下、様々な地域農業戦略を策定する取組みが盛んに行われていますが（例えば、行政主導の「人・農地プラン」、農協主導の「集落営農ビジョン」）、不透明さが晴れたわけではありません。また、戦略を立てたのはいいが、担当者の机の中に眠っているということも多々あるのではないのでしょうか。様々な戦略が立案されているにもかかわらず、それが実効的なものとならないのはなぜか。それは、そのような戦略が必ずしも地域農業の実態を正確に把握したものではないからです。

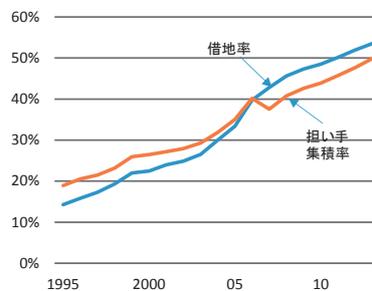


広島県における農村調査の様子

本研究室では、以下の点に特に力を入れて研究を進めています。

- ①地域の農業者、関係機関から徹底的な調査を行う。地域農業が抱える課題が、その要因も含めて明らかになるまで、何度も何度も調査を重ねる。必要なデータの収集にも妥協しない（もちろん、個人情報の保護に配慮した上です）。
- ②一方で、研究対象地域との信頼関係を大事にする。相手の事情を無視した強引な調査はしない。相手の事情を考慮できるのは、何度も調査を重ねて様子が分かっているからでもある。

本研究室では、調査によって明らかになったことに基づいて、地域農業の将来戦略について、説得力のある提言を行います。最近では、全国的に課題になっている、集落営農組織の法人化に特に力を入れてしています。



資料収集・整理による地域農業の状況の可視化

茨城県のある地域における農地流動化の状況

### 何に 使える?

調査研究の結果は、地域における将来戦略の策定時の話し合いの材料として活用できます。